

1. 学歴

- 1984年 3月 東京外国語大学外国語学部卒業
1984年 4月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程入学
1987年 3月 同修了
1987年 4月 同博士課程進学
1991年 3月 同単位修得退学

2. 職歴・研究歴

- 1991年 4月 一橋大学経済学部専任講師
1996年 7月 文部省在外研究員およびロンドン大学ウォーバーグ研究所客員研究員(1997年5月まで)
1997年 5月 ロンドン大学ウォーバーグ研究所客員研究員(1998年3月まで)
1998年 4月 一橋大学大学院経済学研究科専任講師
2001年 1月 一橋大学大学院経済学研究科助教授
2007年 4月 一橋大学大学院経済学研究科准教授

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(a) 学部学生向け

英語ⅠA, 英語Ⅱ, 英語Ⅲ, 英語圏文学, 地域文化論(イギリス), 経済文化

(b) 大学院

各国経済思潮

B. ゼミナール

学部前期, 学部後期, 大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

学部の講義では、自然な発音に注意しながら、文法の理解を重視し、英語のテキストの内容を正確に読みとらせるとともに、ライティング練習を行う(「英語ⅠA」)。また、ライティング授業で英語の論理・修辞に則ったエッセイの書き方を教える(「英語Ⅱ」・「英語Ⅲ」)。上級レベルの授業(「英語圏文学」・「経済文化」等および演習)では、毎回の授業時まで一定分量のテキストを読んでくることを受講者に求め、その上で独自の意見を発表し互いに討論しあうよう促す。「英語圏文学」では19世紀・20-21世紀のイギリスの小説を、「経済文化」では現代イギリスの社会・経済に関する書物(低所得層や移民の問題など)を教科書に選ぶ。

大学院の講義では、ルネサンス期イタリアに関する研究書や、経済学の知見に基いた広い範囲の書物(移民問題など)を講読する。演習では、ルネサンス期の人文主義者の著作(ラテン語)およびこの分野の研究文献(英語)を輪読する。

4. 主な研究テーマ

(1)ルネサンス期の人文主義・修辞学全般。

特に、以下の個別テーマに関心を持っている。

(2)翻訳論を中心としたルネサンス期のアリストテレス主義(人文主義的ラテン語訳、15世紀イタリアから16世紀フランスに至る『ニコマコス倫理学』の受容を対象とする)。

(3)15世紀イタリアの修辞学思想(人文主義者とスコラ学者の論争を対象とする)。

(4)アンジェロ・ポリツィアーノの人文主義・文献学に関する基礎的研究(ポリツィアーノの初期刊本を対象とする)。

5. 研究活動

A. 業績

(b) 論文(査読つき論文には*)

「ルネサンスにおけるキケロ主義論争」『一橋大学研究年報 人文科学研究』第36巻, 1999年, 269-333頁。

「ポリツィアーノの(自己表現)について」『言語文化』(一橋大学語学研究室)第36巻, 1999年, 67-76頁。

「ルネサンス修辞学の諸主題—パーオロ・コルテージの『学識ある人々について』から」『一橋論叢』第123巻 第3号, 2000年, 446-460頁。

「15世紀イタリアの修辞学思想」『一橋大学社会科学古典資料センター Study Series』No. 55, 2006年, 1-27頁。

(c) 翻訳

ジェフリー・グリグスン『愛の女神—アプロディテの姿を追って』(共訳), 1991年, 書肆風の薔薇, 321頁。

レイモンド・クリバンスキー, アーウィン・パノフスキー, フリッツ・ザクスル『土星とメランコリー—自然哲学, 宗教, 芸術の歴史における研究』(共訳), 1991年, 晶文社, 674頁。

D・P・ウオーカー『古代神学—15-18世紀のキリスト教プラトン主義研究』, 1994年, 平凡社, 367頁。

チャールズ・B・シュミット, ブライアン・P・コーベンヘイヴァー『ルネサンス哲学』, 2003年, 平凡社, 512頁。

6. 学内行政

(b) 学内委員会

英語スキル科目ワーキンググループ委員(2009年5月 - 2010年7月)

全学企画運営委員会委員(2012年4月 - 2013年3月)

附属図書館委員会委員(2014年4月 -)

社会科学古典資料センター専門委員会委員(2014年4月 -)

7. 学外活動

(a) 他大学講師等

中央大学文学部兼任講師(2010年4月 - 2014年3月)